

輪島市立鳳至小学校 令和5年度学校評価書（中間）

項目	具体的な取組	主担当	評価の観点	達成度評価基準 (肯定評価 A+B)	学校自己評価 (中間)	取組及び課題解決に向けた改善策	学校関係者評価（中間）	
							改善策の適切さ	意見及び改善策
主体的に活動しようとする姿勢づくり	○キャリア教育の推進 ・あいさつ、あきらめない、後片付け（3 あ運動） ・生活年間目標を通した集団づくり ・生徒指導 4 つの視点をいかした諸活動の推進 ・情報共有と各アンケートをいかした迅速な対応 (生徒指導便り 職員終礼の活用) ・外部機関との連携 発達支援室 ケース会議	生徒指導	○児童がお互いに助け合い、協力して活動する場をつくるとともに、友だちとの温かな関係づくりにつながっている。	□児童アンケート 「学校は楽しい」と答えた児童の割合 A:85%以上 B:80%以上 C:80%未満	低 9 6 %A 中 1 0 0 %A 高 9 4 %A 全 9 6 %A	・生徒指導上の問題が起きた後の対応ではなく、起きさせないための、人間関係づくりや集団づくりに引き続き焦点を当てて取り組んでいく。2 学期もいじめ防止プログラム授業や、集団作りのためのエンカウンターなどを取り入れていく。 ・引き続き、児童アンケートだけでなく、児童の日頃の様子を注視していきながら、些細なこと事でも、職員終礼で共通理解を行い、報告・連絡・相談を徹底していく。 ・3 あ運動の推進については、特にあいさつに重点を置き、生活力向上部会で推進に向けた取り組みを更に強化していきたい。	A 1 0 0 %	●積極的な生徒指導に取り組む姿勢は大変良いと思います。報告・連絡・相談の徹底で取組に成果が出ることに期待します。 ●挨拶・礼儀・言葉づかいに関しては、保護者と教職員そして児童では意識の違いがみられるようです。児童は自分からすすんで挨拶ができていていると思っけていても、保護者や職員はもう少し…と期待しているようです。もうワンランクアップして、相手に伝わる挨拶や礼儀作法、丁寧な言葉づかいを高学年から取り組めるといいですね。家庭での、親のありかたも見直したいです。 ●「学校は楽しい」と答えた 1・2 年生が 1 0 0 % だったのでひとまず安心です。教職員や上級生の接し方が良いということなので、ほほえましいです。 ●校長先生の書かれた文面やマイクの前での挨拶や言葉は、かみくだかれた表現で、熱を感じ、伝わりやすいです。特に人前で話すときのお手本にしたいです。
	○生活リズムの改善 ・年 3 回の調査 ・毎月の実態把握と意識付け ○SNS 機器利用の指導 ・スマホ調査 ・全学年における学級指導 ・保護者への発信	生活力向上部会	○児童が自らの生活を意識し、生活を改善しようとしている。	□保護者アンケート 就寝時間を守っている児童の割合(低学年 9 時半、中学年 10 時、高学年 10 時半) A:70%以上 B:60%以上 C:60%未満	・夜 9 時以降のゲーム・ネット・SNS をしない 保 6 8 % B ・ねる時刻を守っている 保 7 4 % A	・例年、後期に数値が下がっていく傾向があるので、2 学期に集中的に指導をしていきたい。 ・昨年度は直接保護者の方と考える機会を設けた。今年度も継続していきたい。 ・さらに今年度は、SNS 機器をやり過ぎるとどんな影響があるのかを調査し、その結果に基づいて情報発信していきたい。	A 1 0 0 %	●SNS、ネット、ゲームの取組は保護者との連携が必須です。簡単に成果があがるものではありませんが、根気強く取組を進めてください。 ●クロームブックの家庭への持ち帰りにより、生徒個人のネット利用が加速しているように思います。キュビナなどの学習をしていると思ったら、動画を見たりしています。スマホ、ゲーム機器、パソコン等と共に、家庭での利用ルールを定め、確認しあう必要があると思います。保護者の方と共に SNS 機器利用について考える保健委員会の取り組みに、今年も期待します。 ●以前 P T A 会員だった頃には、こんな SNS が広まるとは思いませんでした。何度も折に触れ、親子学習会をお願いします。
	○児童の企画運営による特別活動 ・全校集会 ・運動会 ・各委員会の活動 ○成果の「見える化」による自己肯定感の高揚 ・写真、動画、キャリアパスポートなどでの振り返り	特別活動	○児童が自分達で決め、協力して活動する場をつくり、それが満足感や達成感につながっている。	□児童アンケート 「学級や学校をよりよくするために自分たちで考えて行動している」と答えた児童の割合 A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満	低 9 2 % A 中 9 6 % A 高 9 2 % A 全 9 3 % A	・活動の目的や誰のために活動するのかを意識させながら、児童が主体となって考え、協力して活動ができるように、支えたり見守ったりしながら指導していく。 ・準備の過程や振り返りの時間に、児童の頑張りを褒めたり価値付けたりしていくことで、自己肯定感が高揚するよう努める。 ・学級だよりや掲示物などで見える化を図ることで、児童だけでなく保護者にも伝わるようにしていく。	A 1 0 0 %	●「児童が主体となる」取組、効果が出ていると感じます。この方向で更に進めてください。 ●キャリアパスポートの取り組み、今後も積み重ねていただきたいです。言葉で表現し、体現し、振り返ることで、失敗も成功も満足も不満足も全てが個の「生きる力」となるはずでです。主導権を児童にわたす…見守り励まし助言する先生方もご苦労が多いかと思いますが、さまざまな活動を通して、児童の心身の成長につながればと期待します。
	○道徳の授業は自分の役に立っている ・視点をもたせた話し合い、振り返り	道徳推進	○児童が自分自身の生き方について深く考えようとしている。	□児童アンケート 重点項目についてふり返り、肯定的な意見の児童の割合 A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満	低 9 8 % A 中 1 0 0 % A 高 9 8 % A 全 9 9 % A	・日常生活や各教科と、道徳科での学びを関係付け、自分事として捉えさせることを重視することで、より良い児童の生き方につなげていく。 ・児童の思考や実態に沿った問いかけを重視した授業づくりを行うことで、道徳的価値についての理解をさらに広げたり深めたりする。	A 1 0 0 %	●社会の常識、非常識が通じない世界なのかと、ネット上の誹謗中傷を目の当たりにし思うことがあります。SNS 発信が当たり前の現代においては、対面以上に「言葉」に慎重にならなければいけないと感じます。道徳授業は、自分だったらどうだろうかと置き換えて今一度考えるよい機会だと思います。家庭での人間関係で基礎が築かれるでしょうが、授業で新たな気づきがあればいいなと思います。
学力と体力の向上	①「鳳至っ子の心に灯をつける授業スタイル」に基づく授業実践をする。 ②学び合いの質を高めるため、ねらいの達成のために学び合いの様子を見取り、適切中間評価を行う。 ③スタディーマナーの徹底	研究	①授業スタイルに基づいた授業を実践することで、児童の「楽しそう！考えてみたい！」につながっている。 ②適切な中間評価を行う事が、児童の「わかった！できた！」につながっている。 ③毎月の重点項目を守っている	□児童アンケート □職員アンケート A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満	①児 8 9 %A 職 9 1 %A ②児 9 3 %A 職 7 5 %B ③児 4 月(着べ) 9 3 %A 5 月(聴く) 9 5 %A 6 月(着べ) 9 2 %A 7 月(準備) 9 4 %A	・研究授業を今後も積み重ね、職員が鳳至小の児童にとって「よりよい授業」の形とはどのようなものかを導きだしていく。 ・児童に対する授業の意識調査アンケートの結果を活用し、児童に寄り添った授業づくりを心がける。 ・校内研修では、児童の考えを丁寧に見取り授業の中間場面で肯定的に評価していく方法を再度共通理解し、共通実践する。 ・スタディーマナー(学習マナー)の徹底のためには、児童がスタディーマナー(学習マナー)の必要感を自覚したうえで取り組む必要がある。そのため、これらを守ることのよさを話し合ったり、自分達の状況を客観的に捉え、自己評価させたりする。	A 1 0 0 %	●「心に灯をつける授業スタイル」の取組に大いに期待します。校長の方針のもと、職員一丸となり実践し、成果をあげてください。 ●ぜひとも鳳至っ子の心に灯をつけてほしいものです。指導する先生方も、なかなか余裕はないでしょうが、「わかった!」「うれしい」「おもしろい」「なるほど」「どうして?」というワクワクするような気持ちで授業に取り組んでいただきたいです。 ●スタディーマナーは中学へ進学してもとても重要になります。おろそかにすると学級崩壊にもつながります。徹底をよろしくお願いいたします。 ●イングリッシュルームでの本田先生の声がはっきりしていて聞きやすかったのですが、残念なことに A L T の口元がマスクで分からないので、発音の口の形とか児童から見えるようなマウスガードをしてほしいです。 ●1 階の廊下の「ひとこと英語」が興味深いですね。

	○持久力及び柔軟性の向上 ・年間を通して、スポチャレいしかわに取り組む。 ・マラソントイムを実施する。 ・準備運動に柔軟体操を取り入れる。	体育担当	○日々の取り組みによって、児童の持久力及び柔軟性の向上	□シャトルラン測定値（４～６年生） A:目標回数を超えた場合 B:目標回数の５回未満 C:目標回数の５回以上 □長座体前屈測定値（４～６年生） A:目標値を超えた場合 B:目標値の５ c m未満 C:目標値の５ c m以上	４年生 シャトルラン A 長座体前屈 B ５年生 シャトルラン B 長座体前屈 B ６年生 シャトルラン B 長座体前屈 A	・体育の授業のうち、30分は児童が運動する時間とすることで、運動量を確保する。 ・マラソン大会に向けて、マラソントイムを実施することで、児童が運動する機会を設ける。 ・柔軟性を高める体操を紹介し、児童の実態に合った体操を授業で取り入れることで、柔軟性を高められるようにする。	A 100%	●運動量の確保を意識する体育、大切ですね。授業後、どの子も笑顔であり、ひたいに汗をかいているという体育授業を期待しています。 ●マラソン大会前だけではなく、猛暑や悪天候を除き、長やすみを利用して、週三回ほど走る機会を設けたらどうでしょう。たとえば２学期は10月から。賛否両論ありますが、タイムトライアルを設けたら、体力や運動神経の向上には必ず効果が出ると思います。
職員の協働体制の確立	○職員の能力の開発や人材育成 ・若手教員育成プログラム ・校内研修	管理職	○校内研修が適切に行われ、各部会や推進委員会が、組織的な人材育成の視点で行われている。	□職員アンケート「校内研修が業務に生かされていると感じる」教員の割合 A:80%以上 B:60%以上 C:60%未満	職100% A	・教務主任が、短時間で効率的に若手教員が研修できる内容を考え、進めている。また、繁忙期においては、柔軟に内容・実施時間を変更して対応できている。今後も柔軟な対応をしながら、進めていく。 ・校内研修会においては、事前に議件事のデータ配布をし、ポイントを絞った進进行を意識しており、開催時間の短縮ができている。また、日々の授業や生徒指導をはじめとする教育活動に直結する研修内容となっており、今後も継続していく。	A 75% B 25%	●研究と修養は教員の義務です。校内研修の充実に期待します。力をつけてください。 ●若手教員が多い中、業務に生かされる校内研修、今後も期待します。新任の先生を皆で支え、共に学びを深めていく姿に、拍手とエールを送ります。 ●先日の学校公開で３年生のクラスは国語のテスト返しでしたが、児童が元気すぎて、更に先生の声が小さくて聞こえなかったので、工夫が必要だと思いました。５年生の先生はハキハキしていて良かったです。黒板に「これからの行動」を提示しているのも、分かりやすかったです。
	○教職員の働き方に関する意識の改革 ・定時退校日の設定 ・業務の効率化（Formsを活用したアンケートやエクセルでのデータ管理と共有、業務の平準化等）		○職員は終了時刻を意識して計画的に業務を進めている。	□職員アンケートと勤務実態 時間外勤務時間が月８０時間以上の職員の割合 A:30%未満 B:50%未満 C:50%以上	職 8% A (４～７月分の４ヶ月の平均)	・８０時間を超える職員割合は、昨年度の中間結果の２１％から８％へ減少した。定時退校日を確実に守らせることの徹底や、業務の平準化、管理職も含めた職員相互のフォロー体制で個々の業務の負担感の解消を図っている。 ・アンケートや校内研修会では、ICT機器を用いて、紙媒体を印刷・製本することを省き、業務の効率化に努めていく。 ・時間外勤務時間が多い職員に対しては、個々への助言を継続し、私生活の充実を図っていく。	A 100%	●働き方改革は更に進めてください。改革には、批判も伴いますが、恐れず進めてください。教職員の精神的なゆとりは、子どもの力を育てることに繋がります。 ●教職員の私生活の充実は何より大切です。家庭や個人の心身の健康をおろそかにしては、児童と笑顔で対面できません。定時退校日を守ってください。
地域連携と貢献	○子どもの様子をタイムリーに配信 ・学校 HP の更新 ・月２回以上の学級便り	情報担当	○職員は児童の様子を地域や保護者に積極的に配信している。	□学級だより発行数 月２回以上学級だよりを発行した学級の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:80%未満	□学級だより発行数 月２回以上学級だよりを発行した学級の割合 ４ヶ月×２回＝８回 ８回以上発行学年 100% A 職92% A 保97% A	・各学級担任による月２回以上の学級だよりの発行は継続して行う。 ・学級だより、学校 HP の更新ともに、今後、鳳至小児童の成長や学校としての願いを保護者や地域に伝える内容を、リアルタイムに発信していく。 ・緊急を要する連絡やアンケート等は、Tetoru を活用して発信し。保護者等との情報共有に努めていく。	A 100%	●学校は十分に発信しています。 ●テトルの活用で、タイムリーな情報伝達となされ、助かっています。紙媒体が必要なお便りか否かを見極めていただいても良いかと思ひます。 ●月２回の学級だより、ホームページ更新、ありがとうございます。楽しみにしております。 ●学校だよりのフォントが変わったせいか読みやすいです。 ●学級だよりはリアルな様子が分かるので、先生方が大変だと思うけれど、継続してほしいです。「電子化」は親にとっては便利な反面、客観的に子どもの前で、用紙を読んで一喜一憂する会話の場を失う懸念があります。
	○小中・小小連携 ・学習規律・クロームブックのきまり共有 ・テストの出題内容 ・教材・指導案の共有		○中学校や他小学校との情報交換が実施されている。	□職員アンケート「生徒指導、学習指導等の情報共有が行われている。」と答えた職員の割合 A:80%以上 B:60%以上 C:60%未満	職100% A	・小中連携の機会を利用し、輪島中や他校との情報交換を今後も行っていく。 ・他校の研究授業や校内研修会に参加しやすいように、時間割を工夫し、できるだけ授業を参観できるようにする。 ・Chromebook のきまりの共有だけでなく、よりよい活用の仕方等も情報交換し、校内でそれらを共有する。	A 100%	●今後も課題や成果を共有する大切さを意識し、進めてください。 ●先にも挙げましたが、クロームブックの使用ルールを定め、有効活用していただきたいです。 ●他校の良いところをチョイスして、どんどん取り入れてください。 ●金管鼓隊は、子ども達の成長を地域の方々の目に触れてもらう良い機会です。今年は末広町や横町の住民の方々から待っていたが、通らなくなりつまらない、淋しいとの声がありました。 ●出発式での１年生～４年生のエールを送る歌声は、新しい試みで好感がもてました。